

SS 生物基礎ディベート

「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」に指定された学校には、育成すべき人材像に応じた弾力的なカリキュラム編成が認められ、本校の1学年ではイノベーションを創出する人材(イノベータ)に必要とされる資質・能力を育成すべく、課題研究を行う探究科目(学校設定科目)の他に、各教科でも「SS 物理基礎」、「SS 生物基礎」、「SS 情報科学」が学校設定科目として設定されています。今回はそのうちの1つである、「SS 生物基礎」における探究的な学習の様子を紹介します。

生命倫理に関するディベート

今回は「生殖に関わる iPS 細胞の研究を禁止にすべきである」「出生前診断を禁止にすべきである」「脳死患者からの臓器移植を廃止すべきである」など、8つのテーマでディベートを実施しました。

ディベートとは提示した主題につき肯定側・否定側に分かれて討議することですが、今回は肯定立論2分、否定質問3分、否定立論2分、肯定質問3分、作戦タイム2分、否定最終弁論2分、肯定最終弁論2分、審判2分の計18分を1セットとし、1コマ(55分)で2回実施しました。審査員による投票や司会、運営も生徒が行い、活発な討論となりました。

事前の準備はもとより、実際の試合での班内のコミュニケーション能力や事実やデータに基づいて論理的にまとめて意見を述べる能力や相手の意見を聞き理解する傾聴力、時間配分や勝勢を感じ取る力などさまざまな能力が要求され、実践することでその能力を伸ばすことができました。



(本授業での評価基準 ~ICE ループリック~)

I フェーズ (Ideas:基礎知識):自分の考えを軸にして物事を考え、発言できる。約3%

C フェーズ (Connections:つながり):自分の考えはあくまで1つの視点でしかないと捉え、他者の視点も理解して物事を踏まえ、物事の本質や問題の原因を見出し、発言できる。約73%

E フェーズ (Extensions:応用):自分や他者の意見を十分に理解して、さまざまな視点から物事を多角的に捉え、建設的な対立を行って物事の本質や問題の原因を見出し、発言できる。約24%

授業後の前高生の声

- ・私的な意見とは異なる立論をせざるを得ないときでも、調べていくうちにこんな考え方があるんだなとさまざまな発見があり、新たな見方ができるようになった。(Y君)
- ・ディベートの題材は賛否両論であるが、問題解決のために是非を決めなければならず、自分の立場の意見を正当化できるように発表できたり、まとめ学習以上に調べ、考えていく必要があり、物事を多方面から見られるような力がついた。(T君)
- ・事前に相手の反論を予想し、効率よく意見を言えた。具体的な事例や数字を出すことで説得力が高まると感じた。(U君)
- ・準備を十分にしただけに負けると悔しかった。倫理面、安全性、法律や国際問題など多角的に議論できれば勝てたかもしれない。(S君)